



苦しいことを嘆くよりも 今ある幸せに感謝することが大切

とみた・たいよう 1967年生まれ、東京都出身。国際武道大学体育学部を卒業後、玉川大学の通信教育にて幼稚園教諭の免許を取得。その後、幼稚園教諭をしながら立正大学仏教学部の夜間コースに通い、修行を経て僧籍を得る。2007年より大法寺の住職に。子ども会「冒険クラブ」の主宰や被災地でのボランティアなど、社会活動も精力的に行っている。

Heart Beauty Salon

サトリの ココロ

多くの人が孤立感、生きにくさを感じる今、
仏教に興味を持つ人が増えています。
僧侶に聞く、弱い自分と向き合う方法——

日蓮宗大法寺住職
富田泰陽さん

第63回

私は祖父がお坊さん、両親が教員という家庭に生まれ育ちました。小学生時代の作文には「月・火は学校の先生。水・木・金は動物園の飼育員。土・日はお坊さん」と将来の夢について書いていました。私は中・高の体育教員と幼稚園教諭の資格を持っており、現在は幼稚園児と小学生対象の子ども会を主宰したり、公立小・中学校のバスケットボール部のコーチをしています。お寺では亀やウサギなどいろいろな小動物を飼っていて、お寺に遊びにくる子どもたちに人気です。そして本業のお坊さん。

子どもの頃の3つの夢が叶ったわけですから、われながら、なんて幸せな生き方をさせていただけだっているのだろうと思っ

難病の子どもが教えてくれた命の大切さ、ありがたさ

私には子どもが6人います。弟子時代は給料も安く、生活も大変でした。うちの子どもたちは塾に行ったこともないし、お稽古ごとはひとり1つ。お小遣いもありませんでした。

そして、四女は生後1か月の時に発症し、中学1年生の今でも寝たきりの状態です。お医者さんには「この先も両親のことを一生認識することはできないでしょう」と言われました。病気の原因は不明で、医療的にはもう何もできることがない状態。できるかぎり家族の中で過ごしたほうがいいと思い、退院させ自宅での介護生活が始まりました。

病気の子どもがいることで、「大変ね」「かわいそう」と言われることもあります。でも、私には決してかわいそうな子、不幸な子には思えないのです。たくさんの人に出会い大切にされて13年も生きてこられた娘はなんて幸せな子だろうと思うのです。荒行などの僧侶の修行では多くのことを学ぶことが



港七福神めぐりの「大黒天」としても知られる大法寺。大黒天・毘沙門天・弁財天の姿を組み合わせた珍しいお姿の秘仏「三神具足大黒尊天」を奉安。
⑤東京都港区元麻布1-1-10

何事も「ありがたい」と思えれば苦しみも消えます

「小欲知足（少なきで足りることを知る）」を、現代の子どもたちに伝えるのはむずかしいことです。わが家は病気の娘の生きる姿から、ほかの兄弟が自然にそれを学び、成長してくれました。物が無い、時間が無い、お金がない……いろんなものが足りないほうが子どもは素直に育つようです。

生きていくうえで、みなさんそれぞれ悩みは多いでしょう。苦しみだらけの中で生きているようにも思えます。では、なぜ苦しいのか？ それは家族や仕事や地位など守りたいものがあるからで、見方を変えれば、ただただ「ありがたい」からこそその苦しみ。ただただ「ありがたい」と思えば「ありがたい」と思えばよかった」と感謝できるようになれば、いろいろな悩みは消えて笑顔になれるはず。